

平成 29 年度 研究所奨学論文

応募研究所	政治経済 研究所
タイトル	七三分けと得票率の関係
フリガナ	イシワリ シュウ
氏 名 (代表者)	石割 司悠 (共同執筆の場合は上記者が代表者となる。代表者他 名)
所 属	※研究科・専攻または、学部・学科 政経学部・経済学科 3 年 学生番号：54087

－ 目次 －

No.		※共同執筆の場合のみ記入
1.	はじめに	(担当：)
2.	先行研究	(担当：)
3.	理論と仮説	(担当：)
4.	データと記述統計	(担当：)
5.	分析結果	(担当：)
6.	結論と今後の展望	(担当：)
7.		(担当：)
8.		(担当：)
9.		(担当：)
10.		(担当：)

応募期日：平成 29 年 10 月 27 日(金) 23:00 必着【厳守】

Abstract

なぜ男性政治家は皆同じ髪型、特に七三分けをしているのだろうか。
本論文の目的は七三分けの候補者ほど得票率が高いのかどうかを分析することである。そこで先行研究から「有権者は投票する候補者を直観に基づいて決定する」という理論を導き出した。この理論を、仮説「七三分けの候補者ほど得票率が高い」と置き換え、アンケート調査を用いて分析を行った。その結果、仮説とは逆に「七三分けの候補者はそうでない候補者よりも得票率が低い」ということが明らかになった。
今後の展望、課題として交絡因子を除外した分析をすること、アンケート調査人数を増やすことが挙げられる。

1. はじめに

選挙において髪型は結果に影響するのか。そうであればどのような髪型が選挙結果に影響するのだろうか。有権者は投票する前、選挙公報の写真を見てどの候補者に投票するか決められると思われる。そのため、有権者は外見で判断し投票する可能性も考えられるのではないか。筆者は 2013 年 1 月 4 日の朝日新聞夕刊の「政治家たるもの七三分け」という記事を目にしたことで、外見から髪型に注目し、数ある髪型の中でも七三分けに興味を持った。

本論文の目的は、七三分けが選挙の結果に与える影響を分析することである。本論では 2017 年 7 月に行われた都議会議員選挙の議員の選挙公報の写真を使ってアンケート調査を行い、立候補者の髪型が七三分けであるか否かを被験者に判断してもらい、その結果を「七三分け度」⁽¹⁾として変数化した。

分析を行った結果、対象とした今回の都議会議員選挙において、立候補者の髪型が七三分けであると得票率が低いということが分かった。

本論文の構成は以下の通りである。第 2 節では本論文に関する先行研究を紹介する。第 3 節では本論文で扱う理論と仮説について提示し、第 4 節では本論文で使用するデータ、アンケート調査の結果から七三分けの例を提示する。第 5 節では分析の結果を交差項を用いて説明を交え記述する。第 6 節では本論文の結論と今後の展望について述べる。

2. 先行研究

ここでは見た目によって印象が変わることについての先行研究を紹介する。

柳本は「世界各国の格式を重んじる人々は公の場においては七三分けが基準となっており、七三分けがグローバルスタンダードなのである」と述べている。また「社長や政治家はフォーマルなステージに立つ機会が大変多く、そういった席では恥をかかずに振る舞える髪型がこの七三分けである」とも述べている（柳本・2010）。

渋谷は「相手に真面目な印象を与えたければ髪型を七三分けにするという戦略も成り立つ」と述べている（渋谷・2016）。

また、渋谷の主張に類似したものとして外見心理学者の牧村の主張が挙げられる。牧村は「七三分けにすると信頼感を演出することができる」と述べている。七三分けのヘアースタイルの人は信頼感を何よりも大切にし、信頼感を出そうとしていると思われる。以上から、公人の代表格と言える政治家にふさわしい髪型は七三分けだと言えそうである。

以上の先行研究では、総じて髪型が人の印象を左右し、七三分けが人に好印象を与える髪型として紹介されている。しかし、どちらもデータを提示した実証的な分析を行っていない。よって、本論文では「誠実そうな見た目」を「七三分け」に置き換え、「七三分け」と「得票率」の関係を実際のデータを用いながら分析していく。

Asano は「有権者は投票する候補者を直感に基づいて決定する」と主張し、2015 年に実施された政令指定都市選挙を使って分析したところ、「笑顔度が高い候補者ほど得票率が高い」という結果を示している (Asano, et al, 2018)。

次節では、この Asano の先行研究から理論を提示し、分析に用いる仮説を導き出す。

3. 理論と仮説

本論では、先行研究で紹介した Asano の論文の理論を引用する。

理論：「有権者は投票する候補者を直感（heuristic）に基づいて決定する」

この理論から次の 2 つの仮説が導き出される。

仮説 1：「七三分けの候補者ほど、得票率が高くなる」

有権者が直感に基づいて投票するのなら、より信頼できそうな見た目の候補者を選ぶはずである。また先行研究から七三分けは相手に真面目な印象を与えることができると言える。ここから「信頼できそうな見た目」を具体的

に表すものとして七三分けが適切だと考えた。

仮説 2 : 「立候補者数の少ない選挙区の方が得票率に与える七三分けの影響が小さい」

もし仮説 2 が正しいとするなら、立候補者数が多い選挙区か少ない選挙区かで有権者にとって選択肢の幅が変動するはずである。また、選択肢が広がった時に一人の立候補者を見るよりも比較対象が増えると考えられる。つまり、その中でより信頼できる候補者を選択するだろう。すると立候補者数が少ない選挙区では選択肢が限られることになる。従って、ここでは立候補者数が少ない選挙区の方が得票率に与える七三分けの影響が小さくなると予測した。

以上が上記の理論から分析に用いる仮説を導き出した理由である。

図 1 は本論文で扱う分析モデルである。このモデルにおける従属変数は候補者の「得票率」である。主要な独立変数としては「七三分けダミー」、コントロール変数としては各選挙区ごとの候補者数を用いた「七三分けダミー＊候補者数」である。

その他のコントロール変数として「都民ファーストダミー」、「年齢」、「候補者数」が挙げられる。それぞれの分析予想としては、「都民ファーストダミー」は今回の東京都議会選挙から誕生した新党であるため有権者からの関心を集め、得票率に与える影響がプラスに働くと予想した。「年齢」は経験を重ねた年齢の高い候補者の方が有利との判断ができるため、プラスに働くと予想した。「候補者数」は候補者数が多い選挙区は競争率が高いため得票率がばらつくと考え、マイナスに働くと予想した。

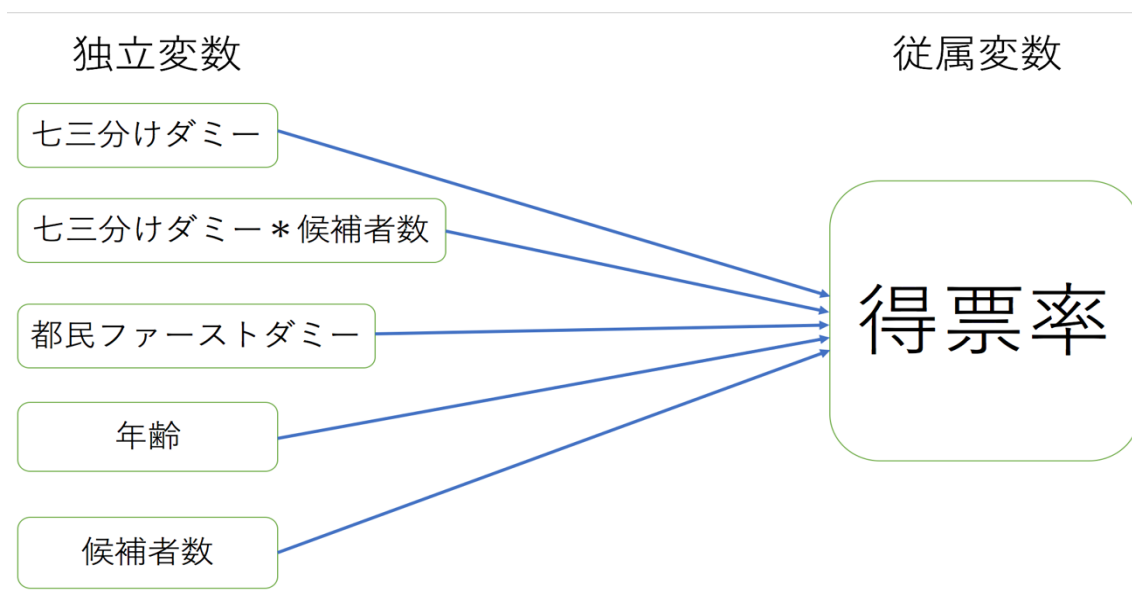


図 1 分析モデル

4. データと記述統計

本論文では、2017 年 7 月に行われた都議会議員選挙の候補者の中で 165 名を対象に、選挙公報の写真を用いて七三分け度を判別するアンケート調査を実施した。このアンケート調査では回答してくれた被験者 5 人中 3 人が「この議員は七三分けである」と直感的に判断した場合に七三分けと判断するという基準を設定した。候補者の髪型が七三分けと判断される場合は 1、そうでなければ 0 としている。

尚、候補者の中で、①女性議員と②「斜めを向いている男性議員」は七三分け度の判別が困難なため、アンケート調査から除外している。

本論文の「得票率」、「都民ファーストダミー」、「年齢」、「候補者数」のデータは 2017 年東京都議会選挙の選挙ドットコム⁽²⁾というサイトを参照した。

図 2 は本アンケート調査を集計した結果から七三分けと判断された議員の例と、七三分けと判断されなかった議員の例である。



大田区
柳ヶ瀬 裕文



北区
高木 啓

七三分けの例

七三分けではない例

図 2 七三分けアンケートの例

表 1 は本論文で使用するデータの記述統計である。

左から変数名、平均値、標準偏差、最小値、最大値を表している。従属変数の得票率は（62.31%）が最大得票率を示しており、最小得票率は（0.3%）を示している。平均値は（17.82%）である。「七三分けダミー」、「都民ファーストダミー」はそうであれば 1、そうでない場合には 0 と判断しているため、最小値は 0、最大値は 1 となった。表 1 の N=165 は、観測数の合計である。

変数名	平均値	標準偏差	最小値	最大値
七三分けダミー	0.33	0.47	0	1
都民ファーストダミー	0.19	0.39	0	1
得票率（%）	17.82%	11.72%	0.3%	62.31%
年齢	50.19	11.73	26	76
候補者数	7.54	4.03	3	18

N=165

表 1 記述統計

図 3 は記述統計の中から「得票率」と「七三分けダミー」の相関関係を示した散布図である。縦軸が従属変数である「得票率」、横軸が独立変数「七三分けダミー」を表している。図を見ると、2 つの変数の回帰直線に負の傾きがあることがわかる。

このことから「七三分けの議員は、そうではない議員と比べ得票率がわずかながら低くなる」という傾向があることが散布図から読み取れる。

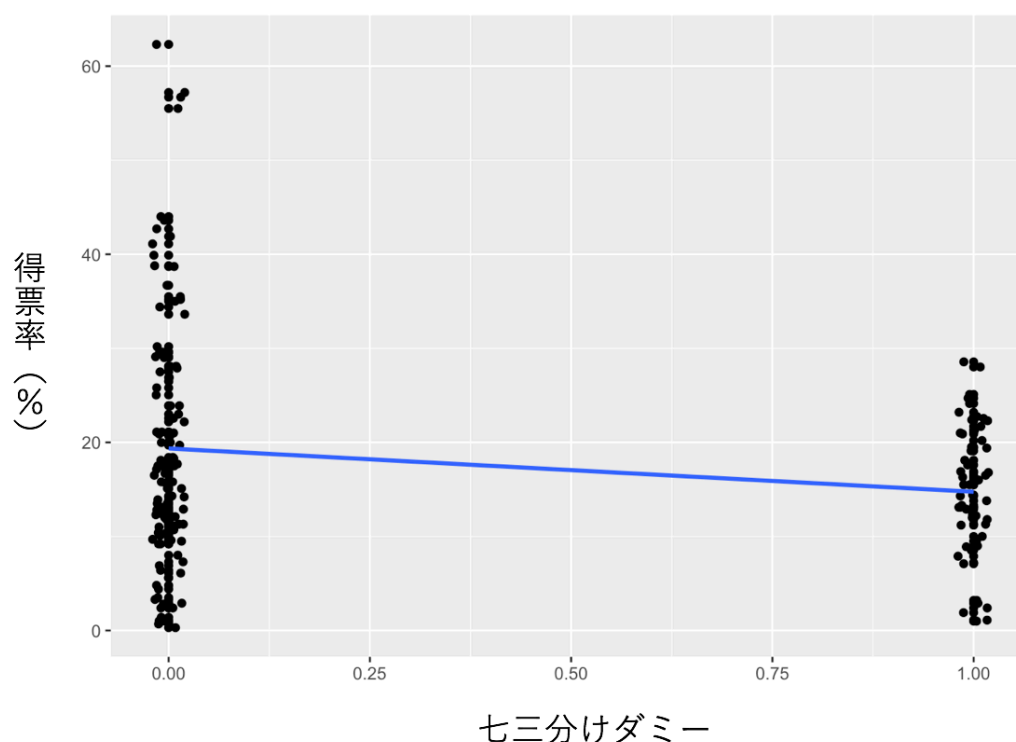


図 3 「得票率」と「七三分けダミー」の散布図

5. 分析結果

本節では、重回帰分析の結果と交差項を用いた重回帰分析の結果について述べていく。

①重回帰分析の結果

表 2 は、得票率を従属変数とした重回帰分析の結果である。

独立変数	予想	係数	p 値 ⁽³⁾	Beta 値 ⁽⁴⁾
七三分けダミー	+	-3.03**	0.02	-0.12
年齢	+	0.006	0.91	0.005
都民ファーストダミー	+	13.36***	3.20e-14	0.45
候補者数	-	-1.59***	2e-16	-0.55
定数		28.00		
F 検定		57.22	2.2e-16	
補正 R 二乗		0.578		

有意水準：***P<0.01 **P<0.05 *P<0.1

N=165

表 2 分析結果

係数に*が付いている独立変数は統計的に有意であることを表している。よって、七三分けダミーは 5%有意水準で、都民ファーストダミー、候補者数は 1%有意水準で統計的に有意であることを示している。補正 R 二乗の (0.578) という値は、得票率の分散を 4 つの独立変数の分散で 58%説明できることを示している。また F 検定の p 値は 2.2e-16 であり、このモデル全体の有意性は 1%の有意水準で統計的に有意であると言える。以上から、次の 3 点が指摘できる。

第 1 に、表 2 の七三分けダミーの係数は (-3.03) であり、七三分けの候補者が七三分けでない候補者よりも得票率が 3.03 ポイント下がることを示している。従って、仮説 1 : 「七三分けの候補者は得票率が上がる」を支持する結果とはならず、予想とは逆の結果となった。

本論の仮説で想定した予想と反した結果が得られた理由として、多くの候補者が七三分けであったため、印象に差がなくなったことが挙げられる。そのため、七三分けの得票率への影響が減少したと考えられる。

第 2 の分析結果として、都民ファーストダミーの係数は (13.36) であった。これは、都民ファーストの会に所属している候補者がそうでない候補者

よりも得票率が 13.36 ポイント上がることを表している。

本論で得られた第 3 の分析結果として、候補者数の係数は (-1.59) であり、ある選挙区で候補者が一人増えると得票率が 1.59 ポイント下がることを意味している。

②交差項を含めた重回帰分析の結果

仮説 2 を検証するために、七三分けダミーと候補者数の交差項を含めた重回帰分析の結果が表 3 である。

独立変数	予想	係数	p 値	Beta 値
七三分けダミー	+	-9.04***	0.0014	-0.36
七三分けダミー*候補者数	+	0.78**	0.017	0.03
年齢	+	0.03	0.580	0.03
都民ファーストダミー	+	13.27***	2.18e-14	0.44
候補者数	-	-1.82***	2e-16	-0.63
定数		28.59		
F 検定		48.310	2.2e-16	
補正 R 二乗 ⁽⁵⁾		0.591		

有意水準：***P<0.01 **P<0.05 *P<0.1

N=165

表 3 交差項を加えた分析結果

分析結果を見ると、「七三分けダミー」と「七三分けダミー*候補者数」の交差項はそれぞれ 1%と 5%の有意水準で統計的に有意な結果となった。つまり、「立候補者数の少ない選挙区の方が得票率に与える七三分けの影響が小さい」ということが言える。

図 4 では横軸に七三分けダミー(0,1)を、縦軸に各候補者の得票率を表している。

ここでは、候補者数の多い選挙区と少ない選挙区で影響の違いを見ることが

できる。

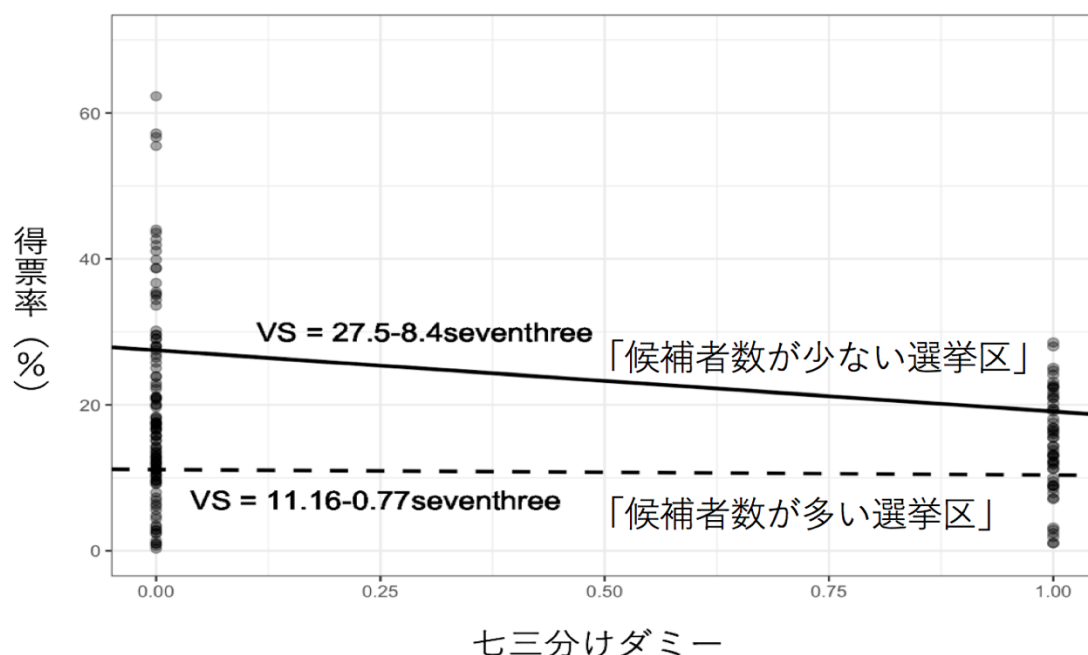


図4 七三分けダミー*候補者数の交差項

点線は候補者数が平均よりも1標準偏差分多い選挙区、実線は平均よりも1標準偏差分少ない選挙区を示している。回帰直線の傾きはそれぞれ「候補者が多い選挙区」、「候補者が少ない選挙区」を表している。図4の回帰式では、候補者数が多い選挙区の傾きは-0.77、候補者数が少ない選挙区の傾きは-8.4であり候補者数の少ない選挙区の方が傾きは大きいことがわかる。このことから、七三分けが得票率に与える影響は、候補者数が少ない選挙区の方が大きいことが明らかになった。

6. 結論と今後の展望

前節の分析で「七三分けの候補者がそうでない候補者より得票率が低い」ということが明らかになった。本論文の仮説1:「七三分けの候補者ほど、得票率が高くなる」とは逆の結果になった。

本論の仮説で有権者が直感に基づいて投票するのなら、より信頼できそうな見た目の候補者を選ぶはずだと予想した。しかし、多くの候補者が七三分けであり、印象に差がなくなかったという予想と反した結果が得られた。

七三分けダミーと候補者数の交差項を含めた重回帰分析では、「七三分けが得票率に与える影響は、候補者が少ない選挙区の方が大きい」ということがわかった。本論文で立てた交差項の仮説 2:「立候補者数の多い選挙区と少ない選挙区では七三分けが得票率に与える影響に差がある」を支持する結果を得られ、統計的にも有意なことが確認できた。

今後の展望として、以下の 2 点が指摘できる。

第 1 に本論文の分析には交絡因子が関係している可能性がある。候補者が七三分けにするかどうかはその候補者の生まれ育った環境や性格などの、個人的な要素が影響していると思われる。

つまり、候補者のパーソナリティが交絡因子となっている可能性がある。そのため今後の分析では何が交絡因子になっているかを特定し、交絡因子を除外した分析をすることで、より正確な結果が得られると予想した。

第 2 に本論文ではアンケート調査を 5 人に対して実施し分析したが、5 人という調査人数では測れるデータ数が限られる。よって今後の分析では調査人数を増やし、分析をより確かなものにしたい。

また、今回の分析では七三分けを印象の良い髪型と捉え、仮説検証を行ったが、七三分け以外にも信頼度や誠実さを測る変数があるだろう。従って、七三分けではない変数で分析を行うことも分析する方法の一つなのかもしれない。

注

1. 2017 年 7 月に行われた都議会議員選挙の議員の選挙公報の写真を使ってアンケート調査を行い、立候補者の髪型が七三分けであるか否かを判断し、その結果を「七三分け度」として変数化した。

2. 「得票率」、「都民ファーストダミー」、「年齢」、「候補者数」のデータは 2017 年東京都議会選挙の選挙ドットコムというサイトを参照した。

参照元：<http://tokyo.go2senkyo.com>, 2017.

3. p 値とは、帰無仮説が正しいとき、検定から計算された統計量以上に極端にかけ離れた統計量が観測される確率のことである。

4. Beta 値とは、従属変数への独立変数の影響の大きさを表す。

5. 補正 R 二乗とは、従属変数の分散を独立変数でどの程度説明しているかという指標である。

参考文献

1. 柳本哲也『ビジ髪 ビジネスで成功する髪型の法則』北海道:エイチエス出版, 2010.

2. 渋谷昌三『外見だけで人を判断する技術 実践編 他人のホンネを見抜くコツから、相手を動かすプロの技まで』東京：PHP 研究所, 2016.

3. 牧村和幸. “七三分けのヘアースタイルは信頼感を出したい人” .

<http://newstyle.link/category41/entry1769.html>

4. Masahiko Asano And Dennis Patterson. *Candidates' Smiles and Winning District Seats Evidence from the 2015 Local Elections in Japan, Politics and the Life Sciences, 2018, forthcoming.*

5. 浅野正彦・矢内勇生『stata による計量政治学』東京：オーム社, 2013.

6. 拓殖大学 浅野ゼミナールホームページ

http://www.ner.takushoku-u.ac.jp/masano/class_material/waseda/keiryo/9_reg1.html

Appendix

本論文で使用した変数は次のとおりである。

- ・ seventhree : 都議会議員選挙候補者の七三分けダミー
- ・ Tfirst : 都議会議員選挙候補者の都民ファーストダミー
- ・ voteshare : 都議会選候補者が獲得した得票率(%)
- ・ age : 都議会議員選挙候補者の年齢
- ・ nocand : 都議会議員選挙候補者の選挙区内の候補者数(人)